

目次

- P1 「調査グループ専任幹事」
メッセージ
- P2 今号の TOPICS
3班 山の向うは
- P3 仲間たちの近況報告(1)
2班 世界遺産を訪ねて
4班 島巡りの旅
- P4 仲間たちの近況報告(2)
1班 高野山一泊研修旅行
3班 先輩各位への感謝
- P5 リレー随筆
Getting old is not bad
- P5 コンテンポラリーアート展
出展作品
- P6 俳句サロン コーナー
絵手紙・絵画・写真コーナー

◇自然と文化だより

12号の発行に投稿頂いた皆様ご協力有難うございました。

未曾有の超大地震と津波、それに伴う原子力発電所の人災から1年です。「何か出来る事はないかとボランティアで来てもらうより、今、観光で来て頂いて生の状況をより多くの方の脳裏に納めて欲しい。」との現地の方の言葉がとても印象的です。シニア仲間でもこの機会に企画してみても如何でしょうか。

「理論的にありえる失敗は、必ず起こる。」とのNewton編集長水谷仁氏のコメントは「想定外だった。」という関係者・科学者たちへの戒めのようにです。N.Take.



★箕面教学の森の樹木★

調査グループ専任幹事 藤川 宗昭

自然と文化科の昨年の調査活動は5月と11月の2回、箕面公園内の教学の森の植生調査を行った。5月6日には管理用道路の野外活動センターからささゆりコース分岐点までの区間とささゆりコース全区間(1.45km)を、11月4日には西尾根コースの始点から野外活動センター分岐点までの区間と、こもれびコース全区間(1.45km)の木本の調査を行った。各調査区間の樹木の種数は次表のとおりであった。

(表) 箕面公園教学の森の樹木の種類数

	西尾根コース	管理用道路	ささゆりコース	こもれびコース	全調査区間
針葉樹	4	4	4	4	6
常緑高木	15	18	20	21	29
常緑低木	8	7	7	8	11
落葉高木	18	30	30	29	42
落葉低木	8	11	19	12	26
つる性	3	7	3	1	7
合計	56	77	83	75	121

全調査区間の種数は121種で、落葉樹が68種と過半を占めている。これらの西尾根の樹木で東尾根や谷筋で見られないものはアカガシ、アクシバ、イイギリ、ウスノキ、シリブカガシ、タムシバ、トチノキ、ナナミノキ、ニガキ、ヤマツツジ、ヤマナラシなどである。また、ささゆりコースとこもれびコースでは20mごとに区切って樹木の種数を調査した。出現区間数の多い樹木は、ささゆりコースではヒサカキ(出現率64.5%)、アカマツ(52.9%)、ソヨゴ(39.9%)、アラカシ(36.2%)、ネジキ(34.8%)、リョウブ(32.6%)、コナラ(27.5%)で、こもれびコースでも順位は変わってもこれら7種が出現率の上位を占めた。サクラも合わせると両コースとも出現率は40%前後と多くみられた。



教学の森の西尾根コース(入口～六箇山)とささゆりコースまたはこもれびコースを合わせたルートを、今後は自然と文化科の箕面公園の自然観察ルートのパリユエーションにできるよう、観察マップ等の資料整備を進めていきたいと思っている。

山の向うは

3班 堀内 信彦

この冬の晴れた寒い日の昼過ぎ、白旗池に行ってみた。池は水を抜かれ茶色の池底を見せている。以前はオシドリやカモ類がたくさん来ていたのに、その姿がない。通り掛りの人に聞くと魚をとるために冬は水を抜くらしいとのこと？ここで覚えたヤマナラシの木も枯れて無残な姿になっていた。

交野山（344m）の大岩の上は冷たい風に、立っているのがやっとの思い。眼下に広がる村や町は明るい日差しに温かそう。左手に生駒山系が連なり、すぐ手前に交野で一番高い旗振り山（345m）があり、その向こうに竜王山（321m）がある。また右には遠く奈良の若草山も見ることが出来る。

白洲正子さんの著「十一面観音巡礼」「登美の小河」に龍王山（竜王山？）が奈良県側から登ってきた情景として書かれている。少し引用させてもらおうと、龍王山は四百メートルたらずの山にすぎないが、遠目にも大きな岩がのびのびと重なりあい一種不気味な印象を与える・・・おそらくはじめは「登美山」と呼ばれたが修験道の行者によって「龍王山」に改名されたのであろう・・・龍王山は大阪側では「交野山」といい交野地方の神山であった・・・交野は奈良時代百済王族の本拠地で河内から平城京へ通う道で・・・。龍王山はその境の山で、大和・河内をへだてる重要な地点にあり、神武天皇の軍勢が攻めよせた時も、南北朝の戦いでも、ここで狼火があげられたであろう。〉

奈良側からは交野山を龍王山と呼ぶのかなと調べたが、よくわからない。

竜王山は空海が雨乞いをして雨を降らせたとの伝説があり、山頂近くにはやはり大きな岩がいく

つもある。修験者の行の跡であろう跡も残されているが、木に覆われていて岩は近くに行かないと見えない。ちなみに「旗振り山」は、江戸時代、堂島の米相場を奈良に旗で知らせたことに由来する。

登美の小河（富雄川）はまさに山の向う側を流れ、クロンド池を源とする川である。

なぜ神武大王（天皇）はここを超えられなかったのか・・・？ 神武と戦った長髓彦（ながすねひこ）は別名登美彦と言う。山の向うは爾藝早日命（にぎはやひのみこと）の治める地、長髓彦の本拠地（桜井とも言われるが）であり、抵抗が激しかったのであろう。ニギハヤヒは天の川の哮（たける）ヶ峰に磐船に乗って降臨した神で物部氏の始祖と言われ、交野は物部氏の地でもある。

富雄川は長い川で高山から流れ、大和川に通じる。山の向こう側は遠い所と思っていたが、川の周りは古代のロマンがあふれる地である。

大仏造営の時、宇佐の渡来の鋳物師が、また大仏殿落慶（749）の際に宇佐八幡大神を勧請した時、難波津からカイガケの道を通り高山に入り、高山八幡宮を頓宮（仮宮）としたと伝える。ナニワから山の向うに繋がる最短で重要な道が竜王山を廻る道であったのであろう。〈登美の小河〉に竜王ならぬ「王龍寺」が出てくる。先日アクセスに失敗したが、磐に刻まれた本尊の「十一面観音」と樹齢約300年、樹幹基部の周囲が約5mほどのヤマモモの木を、是非訪ねてみようと思っている。



ロシアの世界遺産を訪ねて

2 班 西村 彦二

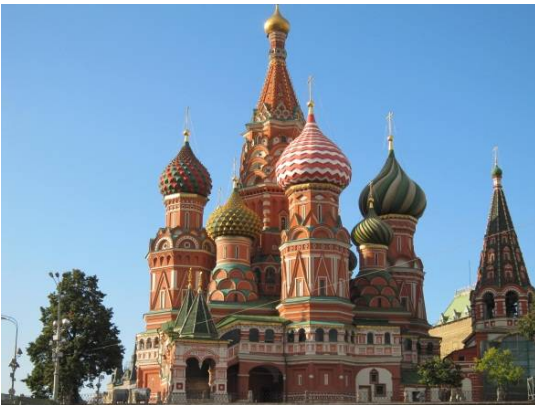
昨年9月1～8日の日程でロシアの世界遺産を訪ねてきました。サンクトペテルブルグのエルミタージュ美術館、プーシキンのエカテリーナ宮殿、モスクワの赤の広場とクレムリン、ウラジミールの黄金の門、スーズタリのクレムリン、セルギエフ・ポサードの大修道院などです。

すばらしい！の一言に尽きますが、これらの世界遺産は、ソ連崩壊後に改修されたものが多く、エカテリーナ宮殿の「琥珀の間」も2003年に復元されたものです。ところで、クレムリンは、モスクワにあるものと思っている人が多いと思いますが、“城塞”という意味であり、したがってスーズタリにもクレムリンがあるわけです。

現在のモスクワの街の印象は、ソ連時代の暗いイメージはなく、街には若い人が多く活気に溢れています。オフィス街を闊歩する若い女性は、スタイル抜群でさながらファッションモデルです。

一方、市内の交通渋滞はひどく、旅のスケジュールも狂いがちで、午後4時半に昼食という日もありました。モスクワの中心部は、ほとんどがクラシックな5～6階建てのビルですが、少し離れたモスクワ川の河畔では、超高層ビル群の“モスクワ国際ビジネスセンター”が建設されています。また、市内の住宅は、ソ連時代の置き土産である中・高層集合住宅（クヴァルチーラ）ばかりで、戸建て住宅は見かけません。しかし近年の住宅政策と好景気の影響で、郊外ではコテージやタウンハウスなどの開発が盛んなようです。

ソ連以前の遺産を利用しながら、新しい国へと脱皮するロシアの逞しさを実感する旅でした。



赤の広場のワシリー寺院

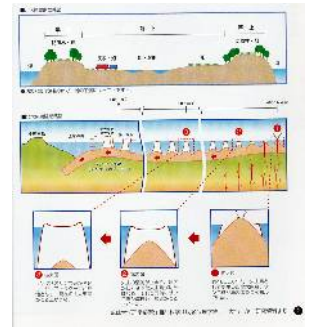
島巡りの旅

4 班 李三 文作

シニア自然大学校に入学して、4月で5年目となります。おそらく一生訪れることもないところに行くことができたのは、シニア自然大学校に入学したからだろうと思います。昨年は島巡りの1年間でした。日本は島国ですが、今住む大阪のこの地が島であると感じたことはありません。ではどのようなところを島というのでしょうか。

オーストラリアも島国なのではないでしょうか。島国の定義を調べてみると、オーストラリアよりも面積が小さく海に囲まれた陸地を島と言うそうです。この定義によれば、世界で一番大きな島はグリーンランド、日本は世界から見ると小さな島国です。

島のでき方には大きく2つあり、1つは大陸の一部から切り離されてできた島（大陸島）です。2つめは海の底から陸地が盛り上がりてできた島（海洋島）です（小笠原諸島、南・北大東島、ハワイ諸島、ガラパゴス諸島）。昨年の3月に南・北大東島（海洋島）に行ってきました。これらの島は、今から約4800万年前ニューギニア諸島付近の火山島として誕生したそうです。フィリピン海プレートにのり、北上



を続け約4200万年前に沈下し、沈下に合わせて火山島の頂上に珊瑚礁が堆積しました。長く沈んでいた島が約600万年前にプレートの運動が琉球海溝へ方向転換し、プレートが沈み込むたわみで環礁が隆起し、現在の島になったそうです。海洋島のため、オオソナレムグラ、ダイトウワダン、ダイトウセイシボクなどの固有種が多く見られます。また、北大東島の固有種で絶滅危惧種として心配されているルソンヤマノイモ、ナガバアサガオ、アラゲタデなどが見られます。また南・北大東島は琉球諸島の一部ですが、沖縄・石垣島・奄美大島とは島のでき方が違います。大東島と同じ海洋島のハワイ諸島は島のプレートが年間数cmの速さで西に移動しており将来は、ちょっとハワイの風呂屋に行ってくるってなことが起こるかも知れません。その時には生きていませんが。

高野山一泊研修旅行

1 班 川井 むつ子

昨年の10月27日、28日高野山一泊研修旅行に参加した。

梅田からバスで高野山の女人堂に到着、そこから少し急な山道をくだると、真っすぐ聳え立つ高野槇の原生林があった。

樹皮はヒノキに似ていて葉の様子は梢が高くて肉眼では見え難いので、幹だけでは高野槇かどうか判らず足元に落ちていた葉で確認をした。群生している高野槇の森を散策の後、弁天岳（984m）に登り山頂で昼食、午後から高野山1200年の歴史を伝える国宝や重要文化財など数万点にのぼる文化遺産が収蔵、展示されている高野山霊宝館を各々自由観覧した。

バスで宿坊に到着後は荷物を置いて直ぐ、阿字観（座禅）体験をした。阿字観とは密教の瞑想法で月→地球→太陽系→銀河系とイメージした宇宙を体内に取り込み自分自身と宇宙（＝大日如来）とが一体となるようにしていくのだが座禅を組んだ脚の痺れが瞑想を妨げ、不謹慎にも迷走体験で終わってしまった。

翌日は朝6時30分から仏前で正坐をして読経を聴いた。お線香の匂いと読経はいつもの朝と違って清々しく身が引き締まった。

宿坊をあとに弘法大師御廟のある奥之院や金剛峰寺、壇上伽藍（根本大塔、金堂）の世界文化遺産を見学した。因みに、金剛峰寺から壇上伽藍に続く参道は弘法大師が竹ぼうきで蛇を払ったという言い伝えから「蛇腹路」（じゃばらみち）と呼ばれ、その時の大蛇の怨念が竹ぼうきに乗り移ったので、高野山では竹ぼうきを使わず名前の由来であるキク科の「コウヤボウキ」の枝で作った箒を使っているのが定説のようだ。

往復とも立ち寄った高野山麓の九度山で、バスの気軽さもあり、手荷物の重さを気にせず九度山特産の柿をお土産に買って帰った。

高野槇の原生林を散策し、高野山の靈気に触れ、健康に良い精進料理をいただき、阿字観体験で大日如来（宇宙）を身近に感じた「自然と文化」の高野山一泊研修旅行だった。

先輩各位への感謝

3 班 西田 喜代三

1年前の今頃は9期高等科も終了間際で、「自然と文化科」主催の武田尾観察会に参加し、終了後にいのしし鍋を囲みながら今後の進路を皆で話し合っていたと記憶しています。植物観察や社会貢献活動等関心が低く、ケヤキとムクノキの判別も困難な劣等性の私が「自然と文化科」に進んだのは、勉強というより本科・高等科仲間との付き合いを継続したいというのが本音でした。

そんな安易な気持ちで4月1日の総会・オリエンテーションに参加したら、「今までの慣わしで新人が班長をすることになっている」と班長を振られ3班3人の新人の中で出席は私一人、止むを得ず班長を引き受けたものの初回の班会議では大変難しそうで、怖そうな大先輩ばかりに思え、正直「自然と文化科」に進んだことを後悔したものでした。

しかしながらこの一年間の活動を通し様々な場面で先輩方にサポート頂き感謝しています。例えば箕面シダ観察会で指導頂いている先生に参加者全員が質問しているので、私もと「このシダの名前は何かですか？」と質問したら「それはタンポポですね」と気の毒そうに答えられました。周囲が笑いをこらえているとき、「確かに判り難いね」と助け舟を出していただきました。

また忘年会の余興では、「雨の御堂筋」の歌と振りをする事になりましたが、練習を呼びかけたら皆さん快く応じてくれたり、お世話になったことばかりを思い出します。

昔から面倒なことが嫌いで、人に積極的に話しかけることが少ない私が、班長という役割を通して皆さんと頻りに連絡を取り合い、親しくお話をさせて頂くようになり、先輩方の人物観察をできたことが一番の収穫であったような気がします。

物静かでどっしり構えている先輩、植物・歴史・文化、何でも来いのタフな先輩、飄々としながら面倒見のいい先輩、いつも真面目で一生懸命勉強している先輩、目立たないけど自分のカラーをしっかり持った先輩、物静かでチャームな先輩方に囲まれ、毎週金曜日の出会いが楽しみになりました。

今年度も残すところ1ヶ月となりましたが、どうぞよろしくお願いいたします。

Getting old is not bad.

2班 下浦 美代

もう10年以上も前になるでしょうか、ある夏、わたしは一週間、ニュージーランドで72歳の独り住まいのご婦人のお宅に泊めていただきました。当時、わたしの外国旅行といえば、いつもホームステイでした。ホームステイは普通の観光旅行と違って、その国の人々の暮らしをそこに住む人と同じ目線で味わえるのがとても好きでした。

毎日のように、彼女はわたしをいわゆる観光地は勿論、その町の教会や学校に、そしてさらにご自分とほぼ同年齢の何人かの友人のところへと、精力的に連れて行ってくれました。街の映画館を経営している人、クリーニング店の店主など、さまざまな仕事をしている人たちでしたが、わたしにはどの方もold ladyに思えたのです。それを感じたのでしょうか、彼女はわたしにこう言いました。”Getting old is not bad.”・・・でもその時の私には、その意味がよくはわかりませんでした。

そして日曜日に、「今日は教会に行こう」と。理由は8月6日に近い日曜日だから「原爆で亡くなった人のために祈りをしよう」と言うのです。私はとても感動しました。車を走らせながら彼女は「72歳の老人の運転する車は怖いですか？」とも聞きました。

そんなにあちこち出かけながらも、夜にはお菓子作りやお料理をし、羊の毛を紡いで毛糸を作り、滞在した一週間でわたしのチョッキを編み上げてくれたのです。

私がだんだんその歳に近づくにつれ、彼女のあの言葉の裏付けとも言うべき優しさと、彼女の言ったあの言葉がとても意味ある言葉だったと強く思い出されます。・・・Getting old is not bad.

コンテンポラリーアート展 出展作品の一部



左上：工作同好会のみなさん
「恐竜 ワールド」

右上：山本祥子さん
「里の花」

右下：中川四郎さん
「パンダワールド」





竹谷律一さん 「ミニチェロ・ミニヴァイオリン」



中川恵美さん 「おともだち」

俳句サロン コーナー

松平 吉生

白むくの人山茶花に目を上げり
春隣ピカソの青の疼きかな
文机の似合ふ先生風花す
みつうみのしづき凍るや柳の枝
初風呂やこそりて五指のひろごりぬ
寒鮒の中り来てゐる留守の竿
冬の日を載せタンカーの足遅し
春の虹やさしくしては空振らず
鳥籠の鳥の代りの春燈
五大陸まはる鯨を召し上げ

谷坂 修二

山茶花の花掃き集め歳を積む
くされ雪椿の落ちて輝ける
枯れ草の虎杖を友に一万歩
雪どもが梅の蕾に絡みおり
森眠る明日につながる冬芽あり
タカノツメ春風つかむほどに伸び

山上 恵子

厄落とし来よとし言へば厄賜ふ
ーバリの旅ー
一瞬の音に隠れし望潮
スコールにあふられてをりケチャダンス
マングローブ夏日と遠く飛行雲
七タのルーツかバリの竹飾り
更紗織りに人だかりあるバリの夏
潮招き手招きしつつ身をかくす

絵手紙/絵画/写真 コーナー



仁科幸子さん2作品

上：セツブン草 下：ミスミ草

自然と文化だより
皆様のご協力により12号が発行出来ま
した。次号をお楽しみに！（広報）